

エアコン・扇風機の事故に注意！

気温が上がり、エアコンや扇風機を使う機会が増えてきている中で、毎年6月から8月はエアコン及び扇風機の火災事故が多く発生しています。

全国におけるNITE（ナイト：製品評価技術基盤機構）に通知された製品事故情報において、エアコン及び扇風機の事故は2013年度から2017年度の5年間に合計404件（エアコン258件、扇風機118件）あり、7人が死亡しており、その中で火災事故が354件（エアコン258件、扇風機96件）と多く発生しています。

エアコンの電源コードの途中接続による事故や古い扇風機の部品が劣化して発生する事故が発生しています。エアコンや扇風機の使用を開始する前に製品に異常がないかを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

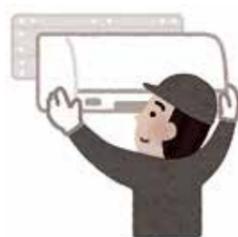


事故を未然に防ぐために注意すること



エアコン

- ・リコール製品による事故を防ぐため、お持ちの製品がリコール対象かどうか確認してください。リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入業者に相談してください。
- ・設置などが適切な形で行われているか確認してください。また、改造などで不適切な取り付けを行わないでください。



扇風機

- ・扇風機内部の電気製品は長期の使用により劣化するので、動きが悪い、動かなくなった、モーターから異音がする、異常に発熱する、焦げ臭いにおいがするといった症状が出た場合は、発熱や発火のおそれがあるため、使用を中止してください。
- ・使用しない時は電源プラグをコンセントから抜いてください。



熱中症に気をつけましょう



熱中症とは？

熱によって起こるさまざまな体の不調のことをいいます。暑さによって体温調節機能が乱れたり、体内の水分量・塩分量のバランスが崩れたりすることが原因です。

環境と体の状態

熱中症を引き起こす要因として、「環境」によるものと「体の状態」によるものがあります。この2つの要因が重なった時に熱中症が起こりやすくなります。日差しの強い屋外はもちろん、風通しの悪い室内でも熱中症は起こります。



環境

- ・気温や湿度が高い
- ・風が弱く、日差しが強いなど

体の状態

- ・運動により体内で熱が多く産出された
- ・暑さに慣れていない
- ・疲れや寝不足などで体調が良くない

症状と対処法

熱中症には、軽い症状から命にかかわる重症まで段階的にいくつかの症状がみられます。次のような症状がみられたら、まずは風通しの良い日陰やエアコンの効いた室内に移動し、すぐにスポーツドリンクや経口補給水などを飲み、横になって体を休めましょう。



着ている服の襟元をゆるめたり、うちわや扇風機で風をあてたり、氷や氷嚢で体を冷やすのも効果的です。冷やす場合は、首筋や脇の下など動脈が通っている部分を冷やしましょう



分類	症状	対処法
I 度	・めまいや立ちくらみ ・筋肉のこむら返り	すぐに涼しい場所に移して体を冷やし、水分や塩分を与える
II 度	・頭痛 ・吐き気や嘔吐 ・倦怠感、虚脱感	上記の処置をしつつ、自分で水分や塩分をとれない場合は、すぐに医師に診てもらおう
III 度	・意識障害 ・けいれん ・手足の運動障害	上記の処置をすると同時に119番通報する 意識のない場合は、無理に水分を取らせない